

試料採取方法・分析方法

試料採取方法

1. 水平方向

津波由来等の影響を確認するために実施した過去の調査と同様、各地点とも表層5 cmの5地点混合により試料を調製した。図1に5箇所混合方式の試料採取例を示すが、調査地点の敷地が狭い場所では、その場所の状況に合わせて間隔と地点数を設定した。

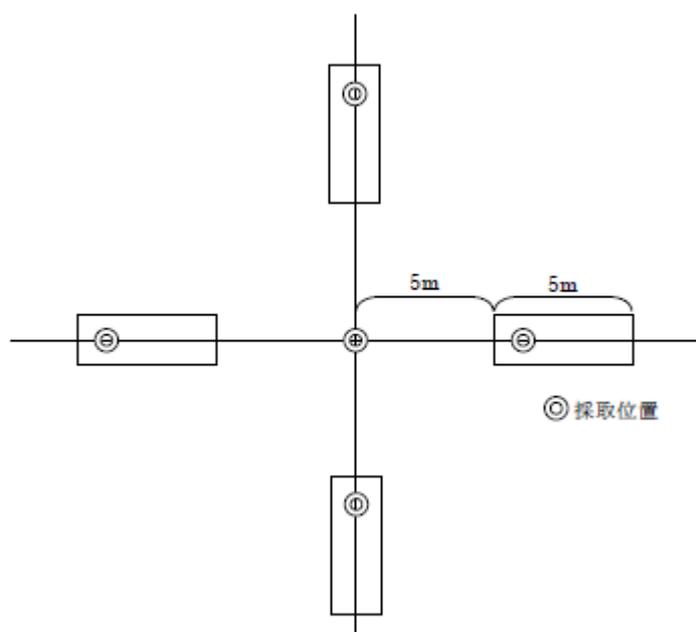


図1 5箇所混合方式の参考例

2. 深度方向 (ボーリング調査)

盛土由来の汚染の有無を確認するため、ボーリング調査を実施した。掘削深度は、表層より当該地点の地山が出てくるまでとし、盛土厚に応じて試料採取深度を設定した。また、盛土部分との比較を行うため、地山部分についても試料採取を行った。

分析方法

- ・ 土壌溶出量

「土壌溶出量調査に係る測定方法を定める件」(平成 15 年 3 月 6 日環境省告示第 18 号)

- ・ 土壌含有量

「土壌含有量調査に係る測定方法を定める件」(平成 15 年 3 月 6 日環境省告示第 19 号)

- ・ 土懸濁液の pH

「土懸濁液の pH 試験方法」(地盤工学会基準 JGS0211)

- ・ 土懸濁液の電気伝導率

「土懸濁液の電気伝導率試験方法」(地盤工学会基準 JGS0212)

- ・ 蛍光 X 線分析

「土砂類中の全ひ素及び全鉛の定量 - エネルギー分散方式蛍光 X 線分析法」(JIS K 0470 (2008))